

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600285		
法人名	株式会社 緑苑		
事業所名	グループホーム メープル		
所在地	石狩市緑苑台東3条2丁目170-2		
自己評価作成日	平成23年11月28日	評価結果市町村受理日	平成24年2月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177600285&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・心と心のふれあいの理念に基づいてその人その人のペースに合ったゆったりとした時間が流れている。又介護される側もする側も同じ目線でだめな人・出来ない人ではなくお互いを支え合い生活している。

・何事も臨機応変に対応している。例えば、特に日程日時を決める事無く出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人役員の「利用者の生活を豊かにしたい」との思いを職員は理解し、日々記録の「気づきノート」と「介護日誌」をもとに、丁寧なケアプランを作成し、熱意を持ってきめ細かい支援に努めています。管理者を中心とした、職員間の温かみのある人間関係は、利用者との間にも良好に影響し、ホーム全体が明るく親しみのある雰囲気があります。法人は、職員のスキルアップを重視し、内部勉強会や毎年ホーム単独で招聘講師による研修会を実施したり、外部研修へも全員が受講できるように努め、その成果が、職員の長期の勤務と利用者への心のこもったケアに反映されています。ホームは、地域との連携も重視し、少年野球チームとの交流、子供御典や小学校児童のホーム慰問など、地域と一体感のあるホームとなっています。設備面でも利用者の住みやすさを重視し、バリアフリー構造、ターミナルケアのための予備室、浴室の全身シャワー設備、居間と食堂の区分、温かく親しみがある木調の内装など、ソフト及びハードの両面で大変優れているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念に基づいて近隣又は小学校やケアハウス等の人達との交流を常に行っている。	職員で作り上げた理念を持ち、建物内部に掲示しています。最近、名札にも理念のカードを入れ、全員の共有と実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者の高齢化により、外出できる方に限りがでてきており、訪問を重視してきている	法人代表者が道具を提供した少年野球チームとの交流、小学生の訪問によるゲームや子供御興の立ち寄り、地域ボランティアの慰問など、地域との繋がりががあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ホームの祭りにて利用者さん手作りの巾着を差し上げたり、うちわなどを利用者さんで手作りしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・地域のニヶ月に一度の推進会議を利用し、利用者の日常の様子や地域の日頃の様子を話している。	会議は、行政及び町内会関係者、多数の家族の参加によって、2ヵ月毎開催し、意見交換を行いながら、ホーム運営に活かすようにしています。	運営推進会議の議事録送付は、会議参加者など一部にとどまっていますが、家族の理解と会議への参加を頂くため、全家族への送付を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域ケアマネ包括支援センター、居宅支援事業所、病院のケアマネとの連携。・年に一度、介護保険課の来訪を受け、利用者さんとの交流も有り。 ＊昼食を共にしている。	管理者は、会議案内や書類提出等で、頻繁に行政窓口を訪問しています。また、市の介護担当者もホームを訪れて頂くなど、行政との協力関係が築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修の実践を受け、身体拘束に対する理解を得て取り組んでいる。（夜間PM7：00～翌AM8：00までは施錠）	身体拘束のないケアを重視し、毎年、関連の研修会をホーム独自に開催して、職員のスキルアップに努めています。玄関の施錠は、職員の夜勤時間帯のみです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修などの徹底（職員意識の向上）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・研修には参加しているが、現在の所、制度を活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・改正があった時は管理者を通して、十分な説明を行っている。また、通信などでも送付している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会で年一回、親睦を兼ねてホームの庭で焼肉会を行い意見、要望等を気軽に言ってくれる雰囲気を作っています。今年は、利用者さん・家族さん同士の団欒が目立っていました。	家族来訪時や、お便りで利用者の様子を伝え、家族会でも要望等を聞いています。要望等は、連絡ノートに記載し、会議等で話し合い、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日の申し送りや月会議で行っている。（書面を通して全職員に周知している） ・四月からは1.2階の職員でカンファレンスをしている	管理者と職員は、日常的に率直な話し合いをしています。会議でも意見や要望を聞き、利用者へのサービスに活かすように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・就業環境の整備は、介護職をしていくものには必須です。向上心をもって働けるよう環境条件の整備に努めています。（技術向上の研修、スキルアップなど）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・進めている。 ・研修の参加をこれからも行っている。 ・他施設の見学 ・全員スキルアップの研修に取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市町村とグループホーム連絡会議を通してスタッフ交流会などで、お互いの向上に取り組んでいく。今後も参加していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ 当所の生活状況、日課、医療に関することを説明し、その他家族、本人からの相談に応じて安心した生活が出来るように努めている。＊不安時は即解消に努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ 家族との相談、質問、不安、要望などを傾聴し、不安なく生活できるように家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ 本人と家族より日常の生活状況や身体的、精神的状況をうかがい「その時」必要なサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ 介護される立場におかず、本人の出来る事また望んでいる事に目を向け、支えあう関係を築いている。 ・ 理念に基づいて行っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ 家族関係を大切にし、お互い支援される立場でなくお互い支えていく関係を築くよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ 友人が来訪された時は、一緒に食事をしたり、居室で談話が出来るように配慮したり、友人宅訪問時には送迎等を行っている。又家族と共に出掛けられる様な雰囲気または支援を行っている。	利用者の知人への連絡を支援し、来訪の際は、食事も提供するなど歓迎しています。馴染みの場所への訪問希望がある時は、他の利用者と一緒に訪れて楽しむこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ 1 F、2 Fの交流のためのレクリエーションなど ・ 利用者同士のトラブルの際は、職員や責任者と話し合っ解決するよう努めている。利用者さん同士一階・二階常に交流している（レクリエーション・外出等）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院時等は、利用者と共にお見舞いに行っている。 ・退所後も家族との連絡 来訪もあり関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者の意向の把握に努め、意思表示が困難な利用者さんは状況状態及び意向の把握に努め、ケアプランを作成し寄り添った支援に努めている。	思いや意向の把握困難時は、毎日記録している「気づきノート」や「業務日誌」などを参考にし、職員同士で相談しながら支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族・本人より、生活歴や本人馴染みの暮らし方、趣味嗜好などを生活の中に出てくる限り取り入れている。・不名誉時は生活の中で配慮に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日本人の生活状況を把握し心身状態を観察し、その時の状態に合わせ本人の残存機能を引き出すように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画の見直しカンファレンスを行い本人の安全と安心に生活が出来るよう努めている。家族への日常生活状況もお話し家族からの意見も伺い要望に添うように努めている。	職員が作成した「気づきノート」に毎日記録し、モニタリングとアセスメントを繰り返しながら、ケアプランの見直しを行っています。ケアプランは会議等を通して、全職員の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・月会議、各階カンファレンスで情報を共有し実践にいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・医療連携、通院、送迎支援、外泊、外出支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの活用(クリスマス会、お祭り、ピアノ演奏、尺八、少年野球部の子供達とのふれあい)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・在総診による月2回の往診、かかりつけ医の月1回の往診、医療機関への受診・かかりつけ医との連携を密に行ない受信結果を必要に応じ家族への連絡や支援を行っています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診も自由ですが、協力医療機関による定期訪問診療も実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日の申し送りでその都度、特変のあった利用者の件について話し合い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・早期に退院出来るように情報交換を行い職員がお見舞いに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ターミナル研修などで、得た知識を全体会議の場で共有し、事業所で出来る限りの支援に取り組んでいく。	重度化等の指針を作成し、入居時と状態発生時に家族へ説明しています。ターミナルケアのための予備室も用意し、職員も対応策を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ADLの変化状況にあわせその都度訓練を行って全職員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域との協力体制は運営推進会議で働きかけている。今年度は実施がなかなか難しかった。地域住民にも参加してもらった。	運営推進会議で、地域の方々へ災害時の協力要請を行い、今年の避難訓練に住民の方々も参加しています。避難訓練は年2回実施しています。	平成24年同敷地内に完成する介護事業所に、井戸掘削による水源確保と自家発電、地域住民を含めた避難場所を設置予定ですが、併せて災害用の備蓄品についても検討し、準備するよう期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人の性格、趣味、生活歴を把握し一人一人の言動に注意し支援している。	利用者の生活歴を把握し、利用者の気持ちを大事にしながら、一人ひとりに合わせた支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・加齢に伴い、自己決定が難しくなっているが本人の意向に沿って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・年齢と共に希望を言うことは難しくなっており、状況・状態を見極め楽しみが持てるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節や本人に似合う服装を選び支援している。自分らしい身だしなみが出るよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一部の利用者に調理の下ごしらえ、片付けなどを手伝ってもらっている。また、季節に合った食材を使用し楽しんでもらっている。	献立は、職員が利用者の好みに合わせて作り、一部利用者には、調理等を手伝って頂いています。食事は、職員と一緒に和やかに過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事水分量は食事バイタル表と温度版を用い把握している。栄養については献立表を使い一日1400kcalを目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを行っている。自歯の利用者には近隣歯科の定期受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・昼夜トイレ誘導を行っている。排泄チェック表を用い個人の排泄パターンをチェックしている。日中は布パンツを使用し、排泄の自立支援、夜間はポータブルトイレの利用も試している。	職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、利用者の排泄自立に向けて熱心に取り組んでいます。このため、おむつやパットから、布パンツを使用するなど、トイレ外排泄の減少などの効果が見られます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事の工夫、繊維の多い野菜を用いたり、腹部マッサージをしている。（腹筋運動、歩行運動など）		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・全希望には添えないが支援している。（週三回月、水、金行っている）	入浴は、週3日の午前及び午後の時間帯に実施しています。1階浴室には全身シャワーがあり、利用者の身体状況に応じて利用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の生活習慣を尊重している。 ・夜間の室温に配慮している。環境・着衣に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・在総診の先生と共に、症状の変化の際は迅速に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入浴日以外土日などは気分転換の支援（近くのスーパーマーケット、コンビニ、図書館、喫茶店）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・希望に添ってなるべく多く出かけるよう支援している。時には家族の協力もある。思い切って遠くに出かける事もある。（花見、大通公園、海、落ち葉狩り、小樽、札幌地下歩道散策など）	車椅子の利用者を含めて周辺の公園散歩や買い物に出かけています。また、庭でバーベキューやおやつを食べたり、遠出のドライブをするなど、外出の支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・支援しており近所のスーパー、コンビニ等へ出かけている。見守りにて支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・一部の利用者だが、自由に電話、手紙などのやりとりをしている。・貼り絵、絵手紙等を行っている（意思の明示が難しい方は職員が対応）		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・木のぬくもりを大切にし、中央が居間で孤立感を感じさせないよう配慮している。カーテンの開閉・蛍光灯の交換をしている。個室にこもりがちな場合合声掛け	建物は木調に統一された内装で、暖かく、落ちついた雰囲気です。食堂と居間が区分され、ゆっくりと過ごせる空間になっています。事務スペースも広く、ターミナルケアの予備室もあるなど、ハード面にも優れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者の思いの場所で過ごしてもらうよう努めている。 ・気の合った利用者さん同士の語らい等も各居室よりきこえる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたものを持ってきている。 ・居室の整理整頓に努めている。 ・仏壇を置き、ご飯・水をあげています	暖房は安全なセントラルヒーティングで、クローゼット、内線電話等が設置されています。利用者は、思い思いの物を持ち込んで、ゆったりと暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリー等自立した生活が送れるよう行っている。手すり、階段滑り止め		